

当院を受診された患者さんとそのご家族および代理人の方へ

当院では下記の研究を実施しております。

本研究の対象者に該当する可能性のある方で、情報等を研究目的に利用されることを希望されない場合は、連絡期間内に、下記の問い合わせ先にご連絡ください。

受付番号	20210086
研究課題名	病院における管理栄養士の配置基準に関する政策立案に資する調査研究
当院研究責任者	済生会横浜市東部病院 栄養部/工藤 雄洋
連絡期間	情報等を研究目的に利用されることを希望されない場合は、西暦2022年3月31日までに下記の問い合わせ先にご連絡ください。
研究の目的と意義	患者さんの栄養状態が、入院中の経過にどのように影響するのかを明らかにすること、そして管理栄養士がどのように栄養管理にかかわっているかを調査することで、管理栄養士がどのくらい必要かを明らかにすること
研究の方法	患者さんの診療記録をさかのぼり、入院時の栄養状態や栄養補給の量や内容、管理栄養士が関わる頻度などについて調査を行います。
対象者	当院に入院をされた患者さんの中で、西暦2021年9月1日～2021年9月30日の間に退院した方（20歳未満の方を除きます）
利用する試料/情報	<p>【施設調査、調査1】病院の栄養管理体制に関するデータ 病床数、入院患者数（1か月間）、管理栄養士の人数、栄養管理業務配置状況、栄養管理関連加算の算定状況、栄養管理計画書「特別な栄養管理を必要とする」該当患者数（1か月間）、栄養スクリーニング指標、栄養スクリーニング判定結果（1か月間の集計値）、平均在院日数とする。栄養関連加算の（特別食加算、入院栄養食事指導料、NST 加算、栄養情報提供加算、早期栄養介入管理加算）について収集する。</p> <p>【患者調査、調査2】既存の診療録データ</p> <p>i. 基礎情報 年齢、性別、原疾患、入院中手術の有無、クリニカルパス逸脱の有無、転帰先、在院日数について収集する。</p> <p>ii. 栄養指標 身長、体重（入院時・退院時）、入院時血清アルブミン値、栄養補給量の不足の有無（入院時・退院時）、代謝ストレス・炎症の有無（入院時）、栄養補給法（入院時・退院時）、入院時栄養評価（良好／中等度栄養不良／高度栄養不良）、退院時栄養状態転帰（栄養改善／改善傾向／不変／悪化／死亡）について収集する。</p> <p>iii. 栄養管理関連情報 栄養関連加算の有無、栄養管理計画書が作成された患者については、管理栄養士介入までの日数、管理栄養士による栄養管理の内容および量について収集する。管理栄養士による栄養管理の内容として、退院時栄養管理計画書に記載される栄養診断（定型句やコードではなく、担当管理栄養士による端的な表現）を、栄養管理の量として、診療録への記録回数、食事箋代行入力回数、管理栄養士の介入頻度を把握する。</p>
研究組織	<p>【研究代表施設】 神奈川県立保健福祉大学 栄養学科 准教授 五味 郁子</p> <p>【研究分担施設】 聖マリアンナ医科大学病院 柴田 みち 済生会横浜市東部病院 工藤 雄洋 南大和病院 宮司 智子 上白根病院 唐木 由喜 済生会神奈川県病院 工藤 恵 横浜旭中央総合病院 佐々木 美穂 日本鋼管病院 岸本 朋子 聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院 清水 朋子 横浜新緑総合病院 星屋 麻直 日本栄養士会 齊藤 トシ子</p>
試料/情報の院外提供	<p>提供先機関：神奈川県立保健福祉大学 提供先責任者：五味 郁子 提供方法：セキュリティ機能付USB メモリに保存し、神奈川県立保健福祉大学に運搬</p>
研究資金源	研究者の私費
結果公表	日本栄養士会雑誌へ投稿予定
研究終了後の試料/情報の取り扱い	本研究のデータ保存期間は、研究終了後5年間とし、その後データ取扱い時にプリントアウトされた紙媒体は、大学内でシュレッダー処理を行い、電子媒体は大学および各病院でデータが復旧できない状態とします。
問い合わせ先	〒230-8765横浜市鶴見区下末吉3-6-1 電話045-576-3000 済生会横浜市東部病院 栄養部/工藤 雄洋